

平成 19 年度 教師海外研修(派遣国:マレーシア)実践報告書

1. タイトル 出会い・ふれ合い・学び合い ミート・ザ・ワールド(マレーシア)
2. 氏名 吉門 妙子
- 学校名 大阪市立敷津浦小学校 担当教科 小3担任(全教科)
3. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数 全8時間
4. 対象生徒・学年 小学校3年生 対象人数(3学級)114名

5. カリキュラム案

(1)実践の目的

子どもたちは、これまでに 総合科の学習「出会い・ふれ合い・学び合い」で、世界には、様々な国や地域があり、それぞれ言葉や文化が違うことは、学んできている。しかし、「世界を知る」ことは、単に異文化との出会い・ふれ合いに留まっていて、そこにある様々な問題や、自分たちの生活との結びつきには、気がついていない。そこで、この取り組みを通して、日本との結びつき、また、アブラヤシプランテーションによって引き起こされた森林破壊が、実は自分たちの生活スタイルにも関係していることに気づかせたい。そこから、今自分たちにできることは何かを考え、行動するきっかけにしていきたい。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ: はてなボックスの中身が何か考えよう ねらい: マレーシアという国に興味を持つ	(1) 8つのはてなボックスの中の品物が、いったい何か、どこの国の物なのか考える。 (2) 8つの物の使われ方と、その物全てが、マレーシアの物だということを知る。	(1) はてなボックス (お金・サロン・虫の標本・セバタクローのボール・お祈りカード・アブラヤシの実・アブラヤシで作ったフォークとスプーン)
2 限目～4 限目 テーマ: マレーシアについて調べよう ねらい: マレーシアという国を知る	(1) 子どもたち自身で、マレーシアについて調べる。 (2) 調べてもよく分からないことについて、補足説明をする。	(1) 国際理解関係の図鑑や本 (2) パワーポイント
5 限目 テーマ: 私たちとのつながり～パーム油を通して～ ねらい: 自分たちの生活がマレーシアとつながっていることを知る。	(1) はてなボックスに入っていた物の中から、私たちの生活とつながりのある物はどれか考える。 (2) 私たちの生活の中で使われているパーム油について知る。	(1) はてなボックス (2) 実物(トッポ・ポテトチップス・カップラーメンなど) パワーポイント
6 限目～7 限目 テーマ: パーム油の裏側にある問題を知ろう ねらい: パーム油の裏側には様々な問題が、潜んでいることを知る。	(1) ビデオを見て、パーム油の裏側に潜む問題について知る。 (2) オランウータンの絵本からも、問題を考えるようにする。	(1) 宇宙船地球号のビデオ①② (2) オランウータンのぬいぐるみ・絵本
8 限目 テーマ: わたし・たちにできること ねらい: ひとりひとりができることを考え、行動する。	(1) ひとりひとり、自分ができることを考え、書く。 (2) ひとりひとりが書いた「心カード」を発表し、これからの行動への意欲を高める。	(1) 心のカード

6. 授業の詳細

1限目「はてなボックスの中身は、なあに？」

① 8つの箱の中に、それぞれ「お金」「サロン」「虫の標本」「セパタクローのボール」「お祈りカード」「アブラヤシの実」「アブラヤシで作ったフォークとスプーン」を入れておき、それを各班に1箱ずつ渡し、「それは、何か(どういう風に使うかも含めて)」「それは、どこの国の物か」を考えさせた。

(児童の反応)触ったり、においをかいだり、「何か読めない字が書いてある!」「ジャングルっぼい」「こんな虫日本にもおるで」などと言いつつしながら各班で真剣に「何だろう?」と考えていた。

② 各班で、考えた答えを発表し、1つ1つの物を今度は、別の班にまわしていき、さらにみんなで、答えを考えていった。

(児童の反応)子どもたちの考えた答えは

「お金」→お金。「1」って書いてあるから、1ドルかな?これはアメリカのお金だと思う。

「サロン」→風呂敷みたいに使うか、テーブルクロス。韓国のものだと思う。

「虫の標本」→虫が大きいから、多分ジャングルのもの。アフリカの虫かな。

「セパタクローのボール」→サッカーボール。木でできてるから、多分アフリカのもの。

「お祈りカード」→パンフレット。英語と見たことない言葉が書いてある。アラブの国。

「アブラヤシの実」→におったら、ちょっとくさい。何かの種。南の島のもの。

「フォークとスプーン」→これは、多分フォークとスプーン。だけど、木でできてるから、南の島のもの。オーストラリアかも。

③ 答えを知らせ、8つ全てが「マレーシア」という国の物だと教えた。

(児童の反応)全ての物が「マレーシア」だと知らせると、「同じ国の物には、思えない」と大変驚いていた。またマレーシアがアジアに位置すると思った子どもは、一人もいなくて、みんなもっと遠くの国だと思っていたようだ。

(児童の感想)

- ・マレーシアが、アジアだって始めて知ったよ。早くどこにあるのか調べてみたいよ。
- ・びっくりするものばかりだった。どこの国の物か全然わからなかったよ。
- ・見たことない言葉がならんでたから、マレーシアの言葉について調べてみたい。

2限目～4限目「マレーシアについて調べよう」

① 図書室で、各自マレーシアについて調べる。

② 子どもたちが調べてみて分からなかったことについて、補足説明する。

(児童の反応)

子どもたちは、まずマレーシアが2つの部分に分かれていること、また日本から意外と近いことに驚いていた。授業が終わっても、参考にした図鑑や本を教室に置いていたので、休み時間にそれを見て、さらに調べたり、また挨拶を調べた子どもは、「ジュンパラギ〜!」と挨拶したりして、教室の中は、ちょっとした「マレーシア」ブームが起きていた。

5限目「私たちとのつながり～パーム油を通して～」

① 8つの物の中から自分たちの生活に関係している物が何かを考える。

(児童の反応)

見たことない物ばかりだったので、自分たちの生活に関係しているということが、信じられないようだった。

②パーム油が、私たちの生活に関係していることを知らせ、どんなところに使われているか、実物やパワーポイントを使って、説明する。

(児童の反応)

洗剤トッパやポテトチップス、カップラーメン、チョコレート、ピーナッツバター、アイスクリームなど、1つ1つ実物を見せていくと、そのたびに「えええ！！」と声が上がった。その後で、パワーポイント「パーム君の大へんしん」を使って、説明すると、自分たちの身のまわりにたくさんのパーム油が使われているという事実、大変驚いていた。

(児童の感想)

- ・パーム君が、身のまわりにこんなにあったなんて、知らなかった。
- ・パーム君は、こんなにいろいろ変身できて、すごい。
- ・またポテトチップスを食べたら見てみよう。家に「植物油脂」って書いてある物を探してみよう。

6限目～7限目「パーム油の裏側にある問題を知ろう」

①パーム油には、実は問題があることを知らせる。

(児童の反応)

前時までで、子どもたちは「パーム君ってすごい」という思いを持っていたので、まず「実は、このウータン君はパーム油のこと嫌いなんだって」と言うと、子どもたちは「なんで？パーム君ってすごいのに」と複雑な表情を見せていた。その後宇宙船地球号のビデオを鑑賞した。子どもたちは、自分たちが「すごい」と思っていたパーム君が、実は、問題を引き起こしていると知って、驚いていた。実はこのビデオは、1本目だけを見せようと思っていたのだが、「小象がどうなったか知りたい」「もっと見たい」という声上がり、結局2本とも見せた。その後感想を書いたが、約半数の子どもたちが「象がかawaiiそう」「そんなにアブラヤシ作らなかつたらいいのに」とパーム君が悪いという思いに変わっていった。しかし、残りの半分の子もたちは「パーム君を使ってる私たちが悪いのかな」「問題を解決するためにはどうしたらいいんだろう」という思いを持った。そこで、それぞれの思いを発表しあい、この問題が、実は自分たちひとりひとりに関係している問題だと、ようやく気づくことができた。

(児童の感想)

- ・象が、私の家族や友達だったらどうしようって思った。私たちは、ちょっとずつ森を奪っていつてるんだね。でもパーム油がなかったら困るし。だけど象のことも考えたいね。
- ・パーム君のせいで、象が困ってるなんて、知らなかった。どうしたらいいんだろう。
- ・パーム君はいいことしてるんだけど・・・動物たちは、かawaiiそう。
- ・動物の家(森)がなくなるし、でも私たちも困るし、どうしたらいいの？

8限目「わたし・たちにできること」

①ひとりひとりが「今できること」を考え、それを「心のカード」に書く。

②書いた「心のカード」をひとりひとりが、発表する。

(児童の反応)

子どもたちは、「う～ん・・・」と頭を抱えてずいぶん考えていた。子どもたちが書いた「今できること」は、「鉛筆を最後まで使う」「もらったスプーンや箸を洗って何度も使う」「紙を無駄にしない」など、自分たちの生活を見つめ直して、それぞれができそうなことを考えていた。ある一人の子が「このことを家族や友達に教える」と言ったのだが、それを聞いて、他の子どもたちも「そうや。ぼくらも知らなかったし、知らん人もいっぱいおると思う。今日お母さんに話してみよう」と口々に言っていた。

7. 授業をしてみて(所感・反省点・改善点など)

1学期から、総合の時間に国際理解教育をしていたので、世界の国・地域のことを知るということは、子どもたちの関心が高く、子どもたちの反応は、第1限目からよかった。

今回は、マレーシアのことにについて、指導者側から全て教えるのではなく、子どもたち自身が、調べるようにしたが、この調べ学習にはもう少し時間をかけてやればよかったと思う。子どもたちは、「もっと調べたい」という想いを抱えたまま、パーム油のことに授業を展開してしまった。ちょうど社会の授業で「産地調べ」をした後だったので、「家で食べたブラックタイガーが、マレーシアから来てたよ!」と、食べ物でのつながりを調べていた子どももいた。家で食べたお菓子里に「植物油脂」と書かれている物を見つけ、学校に持って来た子どもも、たくさんいた。

パーム油については、当初は「パーム君ってすごい!」とパーム油のことを大絶賛していた子どもたちは、その問題点を知ると、複雑な気持ちになったようだ。やはり子どもたちにとってビデオで見た象は、「かわいそう」であり、また森林がどんどん失われている事実を映像で目の当たりにし、衝撃を受けていた。しかし、それが自分たちの生活と結びついているという事実気づく子どもは半数だった。はじめは、「じゃあ、パーム油を作らなかつたらいいねん」と言い出す子どももいたが、友達に「でも、パーム油は人間にはいい物やし、全部なくなったら私たちが困るねん」と言われ、「いったいどうしたらいいんだろう」とクラスの子もたちは、その問題の大きさに頭を抱えていた。すると「先生、どうしたらいいの?」と子どもたちは、答えを求めてきた。そこでは、「先生もどうしたらいいの、分からないねん。でも、みんなができることって実はちょっとしたことなのかもね。」と

言う、「パーム油使ってる物を無駄にしたらダメなことかな?」「森を大切にすること、木でできた物を大切にしたらいいんちゃう?」と、自分たちの生活を見直すことに話がまとまった。

最後に「今わたしたちができること」を書かせたが、子どもたちは、それまでの話し合いから、身近な生活を考えることが大切だと思っていたようで、どの子も自分の生活の中でできそうなことを具体的に書いていた。それを発表し、教室に掲示しておくことで、みんなの「心」を共有するようにした。しかし、このような気持ちは日にちがたってくると、少しずつ薄れてくると思われる。そこで、折に触れ、考えさせるような取り組みをしていきたい。3学期には、社会科で「昔の暮らし」の学習をするが、その時に体験的学習として洗濯板を使っての洗濯をしようと考えている。その時に廃油を使って石鹼を作る計画をしている。その際には、また違った形で環境教育を進めていけたらと思う。

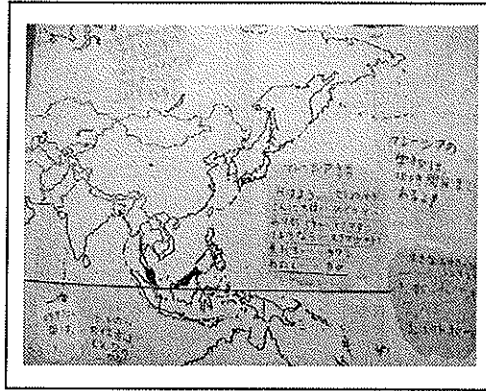
8. 実際の授業の様子・使用した教材

1限目「はてなボックスの中身は、なあに?」



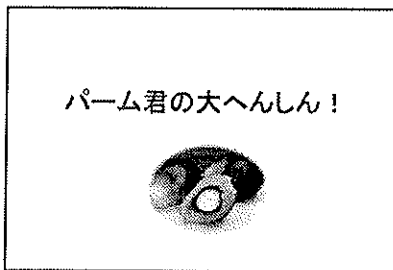
2限目～4限目「マレーシアについて調べよう」

子どもたちが、マレーシアについて調べ、まとめたもの



5限目「私たちとのつながり～パーム油を通して～」

授業で使用したパワーポイント



6限目～7限目「パーム油の裏側にある問題を知ろう」



ビデオに見入っている子どもたちのようす

8限目「わたし・たちにできること」

